

## 1. はじめに

2005 年末のインターネット人口普及率は約 66% である。年代別の普及率は 10 代から 40 代までは 90% 以上であるが、50 代を越えると 75% 以下と年齢格差がある [1]。また、パソコン初心者や上級者にとって WEB ページは、まだ見やすい、使いやすいとは言いがたい部分が多くあると指摘されている。このような背景を基に、本校保護者や学生に対して現在の WEB ページの操作性や視認性の問題についてアンケート調査を行い、その問題点を抽出して、解決策を提案し、その検証を行った。ここにその結果を報告する。

## 2. アンケート調査

### 2-1 調査概要

最初に、現在の WEB ページの抱える問題について洗い出すために被験者にアンケート調査を行った。被験者は本校の 40 代から 50 代の保護者 158 名と学生 1 年の 154 名を対象とした。アンケート内容は「実際に WEB ページを閲覧中の困惑点」、「操作性向上のための意見」について選択方式のアンケートを実施した。

### 2-2 調査結果

調査概要に示したアンケートを実施した結果、WEB ページを閲覧中の困惑点について「目的のページまでたどり着くのに時間がかかった。または、たどり着かなかった。」と答えた人は保護者層では全体の約 40%、学生層では 34% であった。また、「どこをクリックすれば目的のページが表示できるのかわからなかった」と答えた人は保護者層では 20%、学生層では 15% であった。

次に、「コンテンツメニューの位置関係」について、上側、下側、左側、右側のどちらが見やすいかについては、左側と答えた被験者が保護者層と学生層を含め 60% 以上を占めていることがわかった。

今回の調査から、現在の WEB にはコンテンツのナビゲーションの機能が劣っていることがわかった。以上の問題点を解決するために、ナビゲーション機能を持つコンテンツメニューに最適なデザインについてサンプル WEB を製作しパソコン初心者に対して評価実験を行った。

## 3. 実験

### 3-1 実験概要

今回の実験では、実験対象者にメニューデザインが異なる 2 つのサンプル WEB を見比べてもらい、

見やすく、スムーズに閲覧が可能なメニューデザインについて検証した。手順はまず、実験対象者を 2 つのグループ (G1, G2) に分け、G1 では WEB\_A を 10 分間閲覧、今度は WEB\_B を同じく 10 分間閲覧、後に 2 つのページに関するアンケートを行った。G2 では、G1 とは逆にサンプル WEB を閲覧してもらい、アンケートを行った。対象者は、本学科 1 年 37 名とした。使用したサンプル WEB の違いはコンテンツメニューボタンの背景色である。WEB\_A は、現在閲覧中のページのボタンとその他のページのボタンと区別している。WEB\_B では各コンテンツに割り振った色 (タイトル等の枠線色) でボタンが配色されている。

### 3-2 実験結果

1 年生対象の実験から以下の結果が出た。「ページは見やすかったか?」という設問に対し、WEB\_B より WEB\_A の方が見やすい評価が多かった。また、「目的のページまでスムーズに閲覧が可能か?」について、この設問に関しても若干ではあるが WEB\_A の方ができたと答えた被験者が多かった (どの設問集計結果も G1 と G2 のアンケート調査結果がほぼ同じだったので平均を取り集計した値である)。これらの結果より、WEB\_A のコンテンツメニューデザインの方が見やすく、スムーズに閲覧が可能だということが分かった。

## 4. おわりに

今回、保護者へのアンケート調査からコンテンツメニューが左側にあったほうが望まれており現在の WEB はナビゲーション機能に問題があることが分かった。そこで、コンテンツメニューのデザインについて評価実験を行いメニューボタンの背景色を多種の色で区別したデザインより、ボタンの背景色を現在見ているページと見ていないページを区別したほうが閲覧者は見やすく操作しやすいという結果になった。

## 参考文献

- [1] 『情報通信白書平成 18 年度版』 総務省  
(<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/ja/h18/pdf/index.html>)